

◆優良賞◆

生きる事の価値

中原 中学校 三年

熊 沢 和 希

自分らしく幸せに生きるといえるのは、どういうことなのだろう。「幸せ」について考えるとき、生きているだけで幸せだという意見をよく耳にする。確かに人が生まれてくる確率は七十兆分の一で、一億円の宝くじが百万回連続当選するのと同じくらいの確率であり更に、私が私として生まれる確率は、二百五十兆分の一だそう。また、妊娠しても十五パーセント前後が流産になってしまうと言われている。

「生命の誕生」にまつわるこの奇跡のような確率を考えると、無事に生まれて来られたことは本当に幸せなことなのだろう。

しかし、無事に生まれてきても不本意な形で命を失うこともある。

二〇二二年に始まったウクライナ侵攻では千八百二十人以上の子供と五万人のロシア兵が亡くなっている、半年前に始まったイスラエルガザ侵攻では、ガザ地区で約三万六千人以上の人が亡くなっている。

私たちは日本で暮らし、普段通りの生活をしながらニュースで知る程度だが、戦地に居れば当事者となり、明日の命の保証もない状況に陥る。戦争真っ只中で生まれた赤ちゃんは、生まれたばかりなのにいつ死ぬかも分からない環境で生活しており生きているのが当たり前ではない過酷な人生を送っていることになる。

そう考えると私自身、無事に生まれて幸せであり、戦争のない環境にい

て幸せなのだろう。

だが、それで自分の人生に満足できるかというと、私は違うと思っている。

私として生まれた以上、私だけの人生を自ら創り上げていくことが幸せなのではないか。

十四年間生きてきた中で出会った「好き」と思えるものや、「夢中になれるもの」を大切にすることで、自分の世界はますます広がっていくと信じている。つまり、「自分らしさ」が養われていくのだ。

私の場合、今は空手道を通して「自分らしさ」や「幸せ」を感じる事が多い。

だから空手道をしっかり学べる高校に進学するため、勉強をして夢を叶えたいと思っている。その過程で、別の分野に興味を持てば、それを頑張れば良いのだ。

どんな選択をしても、後悔しないくらい本気で取り組めるものがあり、他者にとらわれず自分の価値を尊重できる人生を送れたら、それは自分らしく幸せに生きているのだろう。命がある奇跡に感謝し、自らの手で幸せをつかみとる人生を歩んでいきたいと私は思う。